

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送の開始を10月に控え、デジタル家電の売行きが伸びてくる。
		家電量販店（店員）	・地上デジタル放送の開始を控えており、関連製品の需要増加が期待できる。また、エアコンの販売も伸びが期待できる。
		一般レストラン（スタッフ）	・以前よりも単価の高いメニューが出るようになっており、今後についてはやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・北海道洞爺湖サミットの話題効果もあり、今後についても期待できる。また、6～10月は道内で行われる各種の大会やセミナーへの入込も期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・東京方面へのパック旅行の販売が好調であり、前年比で2けた以上の伸びをみせている。
		旅行代理店（従業員）	・夏のボーナスに合わせて、夏場の販売が増大していくことを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・今年は連休が増えているので、旅行需要が増えることが見込まれる。
		美容室（経営者）	・この数が月間、売上が前年比で5%程度増加している。例年、5月のゴールデンウィーク明けは売上が落ち込むが、今年はそれほどの落ち込みもないことから、今後については良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者	・本格的な観光シーズンの到来に加えて、新たに台湾からのチャーター便が就航するなどの好材料もあり、今後については期待できる。
		設計事務所（職員）	・しばらく低調だったマンション需要が上向いてきたようで、新規物件設計の引き合いが多くなっている。また、医療制度改革に伴う対応の必要性や金融機関の融資が積極的になってきたことの影響から、医療施設設計の引き合いも増えてきている。
変わらない		商店街（代表者）	・商店街における集客力に変化はなく、消費者自身の購買力にも変化はない。消費のトレンドは変わっておらず、天候やイベントなどの一過性の要因による浮き沈みがあるだけである。
		商店街（代表者）	・今年の夏は暑くなるということなので、夏物バーゲンの動きが良いことが見込まれるが、販売単価が低いことや、初秋物の動きが逆に鈍くなることが予想され、全体としては変わらない。
		百貨店（売場主任）	・昨年は冷夏で半袖のワイシャツ、ポロシャツ等の動きが非常に鈍かったが、今年の夏は暑くなるということなので、半袖物の売上が伸びると見込まれる。また、団塊の世代を中心にジャケット等の動きが良いという一面もある。
		百貨店（販売促進担当）	・売上が前年を超えるのが厳しい状況であり、業界全体をみてもあまり明るい話題がなく、今後についても変わらない。
		スーパー（企画担当）	・札幌圏の激しい競合状況は当面続くものと見込まれる。来客数は回復傾向にあるが、販売単価を中心とする客単価の低下傾向には変化がないと見込まれることから、現在の状況は変わらない。
		スーパー（役員）	・今後、夏に向けて、観光客が増加傾向となるため期待はしているが、現在の数値が大きく変わるほどの要素は考えられない。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの高騰が客の動きに影響してくる。建築需要に伴う現場従事者の動きは当面プラスに影響することが見込まれるが、今後は週末の需要が減少することが想定され、全体としては変わらないまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・今月は天候不順の影響で買上点数が大きく減少している。消費が天候に左右される傾向が強くなっており、景気が安定しているとは判断できない。
		衣料品専門店（店長）	・今年は参議院選挙があるが、例年、選挙の前後はあまり景気が良くないので、今後についても変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・客の様子を聞いても良い話が出てこないため、現在の状態が続く。
乗用車販売店（従業員）	・依然として高額車の売上が厳しく、苦戦していることから、今後についても変わらないまま推移する。		

	住関連専門店（従業員）	・天候に左右される面が強く、何とも言えない状況が今後も続く。	
	高級レストラン（スタッフ）	・レストランのランチは時間と懐に余裕のある女性が利用している一方で、男性ビジネスマンは、小遣いを減らされているのか、利用が激減している。その上、昼食時の弁当単価も下がっており、企業が給与を上げていかなければ、消費動向は向上せず、老後不安と相まって外食産業は先細りするばかりである。	
	一般レストラン（スタッフ）	・ここ10か月、ビールや日本酒等のアルコール飲料の売上減少が続いており、客単価の減少、売上の減少につながっている。嗜好の変化により、今後も酒類の消費は減少していくことが見込まれる。	
	旅行代理店（従業員）	・夏に向けての先行受注が低迷している。	
	タクシー運転手	・これから大きなイベント等もあり、期待感はあるが、大きく変化する要因は見当たらない。	
	その他レジャー施設（職員）	・フランチイズのスポーツチームの成績が良いので、今後も売上増、動員増が見込める。	
	住宅販売会社（従業員）	・受注量低下の最大の理由として所得の不安定が背景にある。その状況が改善されない限り、状況が大きく変わることはない。	
やや悪くなる	スーパー（店長）	・売上の右肩下がり傾向に歯止めを掛けられない状態であり、今後についてもやや悪くなる。	
	スーパー（役員）	・2～4月と比べて5月の客の動向が少し鈍いと感じる。当社の業績自体は地域の中では伸びている方だと思うが、プラス幅が小さくなっており、先行きに対して不安を感じている。	
	コンビニ（エリア担当）	・ガソリン代の値上げの影響なのか、遠方へのドライブを控えているため、行楽地や幹線道路沿いの店の売上が期待しているほど伸びていない。今後についてもガソリン代の値上がり心理的要因となって、客が買物を控えるようになる。	
	家電量販店（地区統括部長）	・昨年は、道央圏内の地上デジタル放送特需があったため、その反動で落ち込むことが懸念される。一方、地方都市においては、地上デジタル放送の開始が今年の10月であるため、それまではデジタル家電を中心にほぼ横ばいで推移する。	
	観光型ホテル（経営者）	・来客数の伸び悩みが気になる。道外からの団体客の件数は変わらないが、1団体当たり的人数が伸びてこないため、一人当たりの総消費単価の上昇だけでは厳しい面がある。道内客については、まだ回復傾向がみられない。	
	観光型ホテル（経営者）	・6月の予約状況が前年と比べてやや悪くなっている。また、7月は参議院選挙があるが、選挙のある月は観光客の動きが鈍くなるという傾向があり、これらの状況を勘案するとやや悪くなる。	
	旅行代理店（従業員）	・客からの問い合わせが減少しており、今後についてはやや悪くなる。	
	観光名所（役員）	・ロープウェイ及びレストラン等の予約状況が弱含みで推移している。	
	設計事務所（所長）	・建築業界に限って言えば、景気は良くない。一部の富裕層物件や高級マンションなどの動きは比較的良いが、数は圧倒的に少なく、全体としての動きは非常に悪い。公共工事を始め、数少ない大型物件は、本州大手企業が安値で受注しており、地元企業は苦しい状態が続いている。	
悪くなる	コンビニ（オーナー）	・近隣周辺からの来客数が減少していることに加えて、平均単価が低下している。特に、ちょっとした観光を行うファミリー層の買上単価が低下している面があることから、先行きについては悪くなる。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・今後も新規受注がある程度見込めると同時に、施工中の物件も本格的に稼働してくることになり、人、物、金の動きが活発になる。
		輸送業（支店長）	・本州の建築需要が思った以上に底堅く、今後も本州向け物件が好調に推移し、それが道内の景気にも波及してくる。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・低廉な海外製品との競合や企業収益の減少などの状況から、金融機関等の融資審査が厳しくなっている。
金属製品製造業（経営者）		・受注量や販売量が少しは良くなっているが、力強さが今一つ足りず、力強い伸びが期待できるようなことにはならない。	

	金融業（企画担当）	・原材料価格の高止まりから、企業収益は厳しさが続く。建設関連は公共投資の削減と住宅着工の伸び悩みで低迷する。個人消費は夏のボーナスが抑制されていることから力強さに欠ける。観光関連は旭山動物園人気と来年の北海道洞爺湖サミット開催の効果で堅調となる。総じてみれば、景気は横ばいで推移する。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・今後の計画は散見されるが、経済の良化を体感できておらず、依然として厳しい状況に変わりはない。
やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・原油価格の高騰や輸入石炭価格の高止まりに加えて、外航船舶の運賃も高値が継続しており、各工場のエネルギーコストの上昇が続いている。
	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・この時期としては確定している案件が少なく、今後についても厳しい。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・鉄骨建築の需要減は予想していたものの、予想以上に切迫した状況になっている。上期の金属加工にかかわる受注量は大きく前年を下回る様相であり、この状況は下期前半まで続くとの見方もある。
悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者） ・飲食店を中心とした地元の求人件数に心持ち伸びがみられるほか、正社員も若干だが伸びており、今後については期待できる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者） ・今後の状況については正直何とも言えないというのが本音である。好調な求人のけん引役は、主に道外資本のアウトソーシング系、コールセンター、派遣などであり、道内企業の求人ニーズに関しては活発な動きはあまり感じられない。道内企業、中小企業の状況に限定すれば、あまり明るくない状況である。
		職業安定所（職員） ・新規求人数は増加しているが、パートの占める割合が高くなっている。
		職業安定所（職員） ・全国的には、完全失業率が9年振りに4%を下回ったと報道されているが、管内の新規求人の出方は鈍く、急テンポの回復は見込めない。
		職業安定所（職員） ・景気の先行指標としての新規求人倍率は2か月連続で前年を上回ったものの、これまでの経過から、改善傾向は一進一退の状況にある。
		職業安定所（職員） ・新規求人数の減少に伴い、新規求職申込件数も減少しており、特に無業者や在職者の求職が減少している。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員） ・現状の状況はしばらく続くものの、流通業、建設業はこの夏にピークを迎える可能性があり、ピークを迎えた以降の状況が読めない。
悪くなる	-	-